

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4491200012
法人名	有限会社 スマイルリース
事業所名	グループホーム陽だまりの丘
訪問調査日	平成19年11月30日
評価確定日	平成20年 5月 2日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

〔取り組みを期待したい項目〕

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

〔取り組みを期待したい内容〕

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 12月10日

【評価実施概要】

事業所番号	4491200012
法人名	有限会社 スマイルリース
事業所名	グループホーム陽だまりの丘
所在地	大分県豊後大野市千歳町新殿1233-1 (電 話) 0974-37-3008

評価機関名	福祉サービス評価センターおおい		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成19年11月30日	評価確定日	平成20年5月2日

【情報提供票より】(平成19年11月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年 7月18日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9人, 非常勤 0, 常勤換算 8.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木、防火サイディング 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有 (円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 円 昼食 円	夕食 円 おやつ 円	
	または1日当たり 1,000円		

(4) 利用者の概要(11月14日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低 76 歳	最高 91 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	廣瀬医院 岡本病院 菅尾医院 武藤医院 歯科 高江にこにこ歯科
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1. 職員が陽だまりのように温かく、お互いが共に過ごし支え合う関係を築いている。
2. グループホームの利用者には地域住民が多く、また、その配偶者が隣接するデイサービスセンターや有料老人ホームを利用しているため施設内で家族の行き来ができるよう配慮している。
3. 施設長や管理者は、積極的に地域に出て、住民に認知症やグループホームへの理解を深めている。また、利用者とともに、地域の行事やホームの行事を通して地域との交流を図っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 今回が初めての外部評価受審である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 毎日10項目ずつ、全職員で話し合い、管理者がまとめ、自己評価で取り組みや改善が必要な項目は、ケア会議にて検討するなど具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 3~5ヶ月に1回開催、法人の5事業所の活動状況などを報告し、話し合いをしているが、委員からの意見は少なく、サービス向上に活かすまでには至っていない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 苦情箱の設置と毎月の報告時に意見を書いてもらうようにしたり、面会時に意見を聞いているが、事業所側から積極的に聴く努力や場面作りが少ない。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 施設長や管理者は、積極的に地域に出て、住民に認知症やグループホームへの理解を深めている。また、近隣の人が野菜を届けてくれたり、お茶を飲みに寄ってくれたり、小学校との交流や地区の行事、ホームの行事を通じて、地域との交流を図っている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時、職員と話し合って、独自の理念をつくりあげているが、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容が盛り込まれていない。	○	理念は、地域密着型サービスとして果たすべき役割を反映した内容の理念になっているかを、全職員で再度見直しをすることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示するとともに、毎朝、全職員で唱和することで意識づけを行い、実践に活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設長、管理者は、積極的に地域に出て、住民に認知症やグループホームへの理解を深めている。また、近隣の人が野菜を届けてくれたり、お茶を飲みに寄ってくれたり、小学校との交流や地区の行事、ホームの行事を通じて、地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての外部評価であり、毎日10項目ずつ、全職員で話し合い、管理者がまとめ、自己評価で取り組みや改善が必要な項目は、ケア会議で検討するなど、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3～5ヶ月に1回開催、法人の5事業所の活動状況などを報告し、話し合いをしているが、委員からの意見は少なく、サービス向上に活かすまでには至っていない。	○	地域の理解と支援を得るために、運営推進委員会で外部評価の結果報告を行い、委員から意見を引き出す働きかけを積極的に行い、サービスの質の向上に活かすことが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に、市役所の支所に出向き報告をしている。また、管理者が民生児童委員をしているので、いきいきスマイル事業の委託など関わりを持っているが、事業所側から積極的な連携が不十分である。	○	市の担当者へ積極的に活動報告や課題などを報告することで、考え方や情報を共有し、協働関係を構築することが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、行事のことや利用者の状況などを担当職員が手書きで「陽だまり通信」として、請求書とともに家族へ送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置と、毎月の陽だまり通信の送付時に意見を書いてもらうようにしたり、面会時に意見を聞いているが、事業所側から積極的に聴く努力や意見や苦情を言いやすい雰囲気作りが少ない。	○	苦情や意見が少ないから意見がないのではなく、言い出しにくい場合もあるので、事業所側から意見や苦情を積極的に聞く場面作りや工夫をして、出された意見を運営に反映していくことが期待される。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職や採用時には、利用者で紹介しているが、家族へは特に知らせていない。	○	採用や退職に関しては、家族に知らせたり、利用者のダメージを少なくする工夫や配慮をすることが期待される。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修へも積極的に参加し、参加した職員は毎月1回開催する内部研修会でその内容を報告しているが、パート職員の研修や段階的な研修計画がない。	○	職員各自が段階的に研修できるように研修計画を立て、パート職員も含めた全職員の質の向上を図ることが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宅老所・グループホーム大分県連絡会に交代で参加し、近隣の同業者と勉強会や交流をしたり、市のグループホーム協議会を立ち上げ、勉強を始めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望時は自宅や病院へ管理者が会いに行ったり、家族やケアマネージャーが見学に来て決める場合が多く、いきなりサービスを開始している。	○	いきなりサービスを開始するのではなく、本人が職員やサービスに馴染みながら、納得してサービスが受けられるように、家族とともに支援していくことが期待される。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者が支援する側、される側という意識を持たず、野菜の植え方、水やりの指示や、肩もみをしたり、励まされたりと、お互いが一緒に過ごし、支え合いながら和やかに生活している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴の把握が少ないため、暮らし方の希望、個性や趣味、特技など、その人らしさの把握が十分ではない。	○	一人ひとりの生活歴の把握を、日々の関わりの中での気づきや家族や関係者からの情報を記録し、全般的な願いや思いを全員で共有していくことが望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や本人の意見や要望を盛り込み、ケア会議で検討を行い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回、全職員で介護計画の評価を行い、3ヶ月に1回見直し、状況変化時には随時見直しを行っている。家族には3ヶ月ごとに見てもらい、6ヶ月ごとに確認印をもらっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への送迎や自宅の訪問、墓参りなど、本人や家族の状況に応じて柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を尊重して、かかりつけ医とは薬の受け取りや受診時の送迎、月1回の訪問診療を通じて連携をとっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のガイドラインを作成し、入居時に家族と話し合いを行い、方針を全職員で共有している。看取りの時期は、主治医、家族などと話し合って決めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	研修会を繰り返し、職員間でプライバシー保護や利用者の尊重や個人情報の保護について確認し、周知、徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、体調や気分により、行動をしたくないときは無理に誘わず、好きなようにできるなど、その時の本人の気持ちを尊重して個性のある支援をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じテーブルで話したり、介助しながら食べているが、一人ひとりの能力や個性に応じて、食事の準備や片づけなどで利用者のもっている力を活かす場面が少ない。	○	職員と一緒に、食材の準備、調理、片づけなど、利用者一人ひとりの個性や能力に応じて、食事を楽しむ環境作りへの支援を行うことが期待される。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴が基本で、入りたい時に入っているが、入浴を嫌がる人や身体機能の低下している人には、希望やタイミングに合わせて職員も浴槽に入り介助している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で、野菜や花の植え付け、水やりなど、一人ひとりの役割を作り出す働きかけをしている。また、希望に添った外出や行事参加など、楽しみごと話し合いながら行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に1回はドライブに全員で出かけ、時期によっては週1回出かけることもある。買い物や柿採り、竹の子採りなど、目的を持って出かけたり、近隣を散歩したり、一人ひとりの希望に沿って、部屋に閉じこもらない支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が、鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は鍵をかけないで利用者を見守るケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署と連携して訓練を実施している。連絡網やホットラインの取り付けなど対策はとっているが、地域との協力体制が十分ではない。	○	災害対策について、訓練だけではなく、日頃から地域住民や消防署等との連携を図ることが必要である。また、職員の救急時の対応についても、反復して訓練を行うとともに、災害に備えた食料や水などの備品も準備しておくことが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員で話し合いを行い、一週間分の献立をたて、摂取量や水分のチェックはできているが、栄養バランスや摂取カロリーについての把握が十分ではない。	○	献立を定期的に栄養士からチェックしてもらうことで、栄養バランスや摂取カロリーを大まかに把握し、全職員で共有し支援していくことが期待される。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や緑の鉢物などを置き、季節を感じる工夫をしており、テーブルやソファで話したり、雑誌を読んだりしながら居心地よく過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	薬袋を束ねて大切にしている人や空き缶に挿し木をして育てている人など本人のこだわりを尊重している。使い慣れたもの、なじみのものなどを活かし、一人ひとりの居室を個性的で居心地よく過ごせるように工夫をしている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

【取り組みの事実】

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

【取り組んでいきたい項目】

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

【取り組んでいきたい内容】

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	陽だまりの丘
（ユニット名）	
所在地 （県・市町村名）	大分県豊後大野市千歳町新殿1233-1
記入者名 （管理者）	河野八重子
記入日	平成19年11月14日

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいる項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1. ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ミーティングの機会や研修会等で周知徹底を図り、この地域で心ゆかに暮らし続けるよう支援する体制づくりを強化する。	○	朝礼、夕礼、等で周知徹底を図るとともに情報共有化を強化する。
2. ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を明示するとともに全職研修会等で周知徹底する努力を日々展開している	○	あらゆる機会をとらえて職員ひとり一人が問題意識をもって行動するよう取り組みの強化を図る。
3. ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域住民に対して視察研修の場として又全職やレクの提供の場として開放しています。	○	年間を通じ各種行事等へ参加したり、お招きして交流を図る。七夕祭り、盆おどり、観月祭、収穫祭等
2. 地域との支えあい			
4. ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	元気高齢者が気軽に立ち寄れるようにいざい支援の場の提供を行っていると同時に地域での行事等(お祭りやふるさと祭り)へ参加している。	○	いざい支援事業に近所の方が利用していますので知人友人等を通して声かけ等して交流を図ります。
5. ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	同上。 地域見守りネットワークの一員として地域福祉向上に向け、情報交換に努め、資質の高いサービスを提供します。	○	ふるさとお祭りや お祭り、高齢者福祉運動会等へ参加します。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	報告を経て 学校等へ配印 する 取組みを通して児童等との 交流を図る。	○	古くから伝承されている料理等を 児童等に教えることや、この地域に伝わる 民謡等を伝えて交流を図る。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月10日の月例研修会を実施 して、利用者の満足度の追求を している。	○	月例研修会時に10項目を目 途として取り組みの進捗を図り 自己研鑽に努める。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月の利用状況等の説明を実施 するとともによりよい施設となる為の 御指導を委員より聴取している。	○	意見、要望等と充分交映できる ように職員に対して会議の 内容等周知徹底する。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当職員に来所して戴き 事業の実施状況等の報告をすると ともに指導を戴いております。	○	定期的に意見等をお聞きして サービスの質の向上に努める。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	安心サポートセンターのしくみ についての説明を研修会の前後 に行っています。当事者等(ワーカー)に おいて利用者がいます。	○	利用者が安心して暮らせるよう 全職員が制度について理解 が深まるよう取り組みを強化する。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会実施時に職員に対して 虐待防止についての周知徹底を図ると ともに、どのような行為が当否のか を話し合う機会にしています。	○	ささいな事でも見過ごさない 取組みを強化します。 言葉による虐待やいじめ等の 強化を図ります。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を提示し、充分理解 をして戴いた上で契約を締結 しております。	○	重要事項説明書に沿って 説明し、納得して戴いた上 で契約を締結します。
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓口へ苦情や相談を設置する とともに請求書送付の時にも、 意見を戴くようにしています。	○	意見、要望を重視するとともに 反映できるよう強化します。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	電話、手紙(陽に利用通信) の手段にて周知しております。	○	折にふれ、回数を増やすよう とりくみを強化します。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	上記のとおり	○	上記のとおり
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼、夕礼、定例会 委員会(企画、給食、業務) 関係による意見聴取	○	各種委員会のとりくみと 強化し意見の反映して よりよい職場環境の整備を図る。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	事情に合わせて対応しています 病児受診等時間帯対応について も調整可能です。	○	企画会議等で要員確保に ついて充分話し合っており 、働きやすい環境整備に努めます。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職等による補充は早急に 行うようにしている。	○	要員確保には^手全を尽すと同時に 質の向上への取り組みを 強化する。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修(内部・外部)の場を通して 資質の向上を図っている。 毎月10日に実施している。	○	質の向上へ努力する。 介護福祉士 - ケアマネー等 より上級の資格へチャレンジして 取得するよう強化する。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネジャー協会等をつくら り連携を深めて、資質の向上 に努めている。	○	地区内の事業者との連絡会 等結成して、お互いの情報交換 を密にして、サービスの質の向上に努める。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定例会活動を通して、楽しみ を創るから働く環境づくり に力を入れている。 新年会、苑見、忘年会、お祭り会等	○	職員自ら休日の過ごし方等お互いに 話し合う場を設け、ストレス発散に 努める。お盆職員間トラブルの発 生を防ぐ、共に管理を強化する。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の提案を積極的に取り入れ る取り組みの一例として、陽だまり の丘の運動キャップコピーの提案者 に対する賞の付与等	○	給賞必罰を、はっきりして、頑張る 職員との格差をあげ、特 に、又常に問題、課題意識の高 めを促す。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	コミュニケーション型での為、職員は、出来る限りよりそう機会を多くとる努力をしています。	○	小さな不安も見逃さず、ケアを心がける。
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の状況等について不安な事等相談に応じ行政機関や関係機関との連携を図っています。	○	全職員が情報を共有する為生活歴等の開示をして、把握に努める。
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランセンター等との連携を深めて相談し、本人にとってベターな支援策をミーティングの場で行っている。	○	利用者のニーズの見極めを的確にして、一着必要の支援は何かを吟味して考えるケアのとりくみを徹底する。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入館をする努力をします。	○	本人にも充分納得し、以上の利用は勿論ですが本人の意向が乏しい場合は、御家族の方にも納得して頂くよう、御相談して。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の方、お一人お一人の立場にたって、いろいろな世代、困り事、喜びを共有し、利用者の方から教えて頂く。常に利用者には寄り添ったケアを心がけています。	○	その場では、皆さんとより深い信頼関係が、もてるよう、心のケアにも取り組んで、いきたいと思っております。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支え ていく関係を築いている	御家族の方と、御会時、本人を交えて、 困り、悩んでいることを、相談しながら、 本人を支えていく方向で、関係を築いて います。また、御電話をいただき、話し合 い、よりよい関係を築いています。	○	
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援 している	家族の方から、遠方から、帰って来られた時 外泊支援や、外出に連れて行って 頂いたり、より良い関係が保てよう、 支援しています。	○	
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に努 めている	大切にしていた馴染みの方に来て頂 いたり、本人が、行きたい場所へ は、お連れしたりして、関係を途切 れないように支援しています。	○	
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが 孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合 えるように努めている	行事や、レクリエーション、カラオケ等を通 じて、利用者同士で、関わり合い、 孤立しないようなケアを行って いくように努めています。	○	
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続 的な関わりを必要とする利用者や家族には、 関係を断ち切らないつきあいを大切にしてい る	入院先の病院に立ち寄ったり、 御家族をお会いして、その後の状況を 伺ったり、関係を断ち切らない方向 で、おつきあいして頂いています。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向は、常日頃から把握に努め、困難な場合は、利用者本人本位に検討している。	○	
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活歴や、馴染みの暮らし方、生活環境も、それによって取りし、御家族の方にお聞きし、把握に努めています。	○	
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの人にとって一日の過ごし方をしており、心身状態も把握しており、その方の自立支援に向けて、ケアをしています。	○	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題と、ケアのあり方については、家族はじめ、必要に関係者（ケアマネジャー）にケアカンファレンスを行い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	○	
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて、見直しを行うとともに、2月から3ヶ月、6ヶ月の見直しを行い、また見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、関係者と、新たな計画を作成している。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フォーラム、実行、検証のくり返しを 実行し、モニタリングを行なうなか ら担当介護職員を中心によりよい ケアを目指します。	○	利用者の満足度を常に検証 する。ケアに反映する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者のニーズの把握に努め サービスの標準化に努めると ともに家族の要望に応えるシステムの 構築に努める。	○	家族との連携を密にする 小さな要望も見落とさない 小さな約束も必ず守る習慣に 心がける。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の力を運営者として 選任するとともに警察との 連携、より一層深めていこう	○	千歳町の駅在所 若我警察補 さんと常に連携を行い、地域見守り ネットワークの一員として行政機関との 連携を図っています。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人にとってどのサービスを利用する のか一喜一憂のなかを常にケアマネ 間で連絡調整を行なっている。	○	ケアコーディネーターとの連携を より一層深めて、利用者の安心 に繋げるよう努力します。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	要支援利用者のケアマネジメント を実施し、地域包括支援センター と連絡を取りながら。	○	認知症の利用者である事を充分 理解し、あんしんサポートセンターの 利用等について学習会を前後ほ く。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師を中心に定期的受診 急な受診 服薬についても受診 し、適切な対応ができる体制を とっています	○	広瀬医院 み之記念H.P 国本H.P み之訪看センター 福島H.P. 等との連携体制 をとっています。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	国本病院、み之記念病院、衛 教病院等と連携を図りながら、 服薬等の相談を行っています。	○	日々変化する病状に対応 する為病院との連絡調整に 努めています。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	み之訪看センターとの契約により 高・療の相談機能も図れ ると思っています。	○	当事業所の看護師の薬服管理 を中心に研修会等でも役割の 活用、ケースについて検討してい ます。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	当事業所の病院へ入院した 場合は担当職員が病院 職員は病院へ同様の情報収集に 努めています。	○	医師等と行き届く病状について DRや看護師と連携をして 早期退院に向け働きかけを行 っています。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関するガイドラインの策定 を行っています。	○	ガイドラインに沿って支援にお ける職員は情報と共有する努力 をしています。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ガイドラインに沿って4-6ヶ月 かできるよう支援体制を とっています。	○	定例の研修会等を通して 看取りについての研修と交流 を図っています。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家庭での生活に帰る場合は 日常での服装・しぐさ、風呂等につ いても配慮し、可能などうか 確認している。	○	可能な限りダメージを少なく するようキーパーソンと協議する ようにします。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	コンプライアンスを遵守するよう 常日頃から職員同志科別で 行っている。	○	まず職員間のプライバシーの 尊重を促して利用者の プライバシーを守っている。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	わかりやすく言葉かけを心 かけている。	○	利用者の思いを常日頃から 把握できるケアチームを 構築している。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	画一的な支援には応えられ ない。	○	無理なスケジュールには応え られないプログラムを提供する 工夫をしている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	パーマを好む利用者には ミッド町まで連れていき 2月に1度カットしている。	○	本人の好みや家族の方との 話し合いにより希望に添え るよう支援している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しみあつた会である事を 全職員が理解して可能な限り 希望に沿う努力をしている。	○	全食品手づくりを基本として 地場野菜等を使用し安心 安心には万全を期している。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒については本人と家族と医 師と相談して健康上支障のない 範囲で楽しんで飲んでいる。	○	病気の悪化を避けて楽しみを見 出せる利用者とは相談して おやつ等の工夫をする。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレ指導を基本的に1人～ 2人おきにしておむつの使用を 減らしている。	○	快尿・快便・快便のサイクル が快適にできる支援のため、 適度の運動・筋トレをします。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に沿った入浴の支援を 実施している。	○	風呂嫌いを減らす努力をしています。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	温度管理等注意してお昼寝 をすすめると同時に夜ぐすり 眠る支援に心がけます。	○	パットがぬれていない等のこま めなチェックを実施します。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	草花の植えつけ、野菜の水やり 洗濯物の整理等本人が自分で できるものと職員と共に実施します。	○	ドラッグ、デパート、「イスタピア おおの」での催しものに行ける様 支援していきます。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の持ちこたえ方を希望する利用者には楽しみとして持たせてあげておける。	○	買い物支援にとりくみます。 Aコーポでできるトキハ 位までいけるように支援します。
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見やドライブ等 可能な限り実施しています。	○	利用者のふらりと訪問を希望に沿って支援できるように努めます。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	その日、その時を大切にできる支援を心がけます。	○	高齢者にとっては、1日がとても重大の意味をもつと認識しに支援に心がけます。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	手紙を書いたり Tel したりしてとても喜んでいます。 特に手紙が届くのは。	○	気軽に手紙が書ける環境づくりに努めます。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	休日等には来訪者があつたり別荘面会等のとおりです。	○	利用者等して面会者があつたり子供が遠くにいる利用者には詳しくない支援をしています。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会を通して周知徹底しています。	○	身体的拘束・精神的拘束の防止。常日頃より周知徹底を図っています。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開かれたい事業者である為に 昼間の施錠は基本的に行って いません。		介護者は常に9割の行動力を把 握して支援していきよう努力 します。
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	巡視の徹底を図り 声かけを行って…る。		目くばり、気くばり、声かけの徹 底
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁、はさみ、糊、フリップ等 は常に保管に注意を払って…る		転倒防止の為 足元の安全に 気を配る。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	避難訓練并実施して事故防止 にとりこんでいます 配膳の抑は、名札の励行。		事故防止に向け、マニュアルを 常に頭にいれながら行動する。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急管理マニュアルに沿って 火災訓練、急病対応訓練 を実施します。		発生時にあわてる事のないよう 常日通りの訓練を通して、安心 安全な取組方により全職員がとくま
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練はもとより地域見守 りネットワーク活動を通して地域との 協働に努めます。		日常の支援の中で安心・安全 に対する考え方を身につける。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切に した対応策を話し合っている	徘徊者にもしても、危険のないよ うな方向で、思いのまに過ぎ て頂上、抑圧感のない暮らしを大切 にした対応策を話し合っている。	○	もう少一人ひとりに起こり得る リスクについて、その方の身になつて 思い深く、熱心に考え、抑圧感の ない暮らしをできるように話し合っている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努 め、気付いた際には速やかに情報を共有し、 対応に結び付けている	週明けの決まった時間には、バイタルを計測 し、その一人ひとりの体調を把握し、 異変の発見に努め、必要に応じて 対応は、早め早めの対応に、全員取り組んでいる。	○	体調の変化や、異変の発見に努め てはいるが、もう少し、早め早めの対 応が、できよう、意見を出し合い、 気付いたら、できよう、にしている。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について理解してお り、服薬の支援と症状の変化の確認に努めて いる	一人ひとりの病名と服薬について、 一覧表を、いつも、頭に入れておき、 副作用、用法や用量について、理解 している。服薬の支援と、症状の 確認に、努めている。	○	もっとも、職員が、薬の目的 用法、用量について、理解できよう、 話し合いをして、服薬支援を 強化している。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解 し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体 を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘に、良い、飲食物、オリーブ、オイル、 乳酸菌や、野菜、バナナ、等、果物を、ついで りして、また、体操や、歩行運動等も、 毎日、続け、行い、便秘の方は、ずく まっています。	○	
76 ○口腔内の清潔保持 口の中での汚れや臭いが生じないように、毎食 後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援 をしている	口腔ケアに取り組んでいるが、毎食 後、しっかりと、行っているが、状況に ず、朝、晩は、良いが、応用時の後、 できていない状態です。	○	口腔ケアの大切さを、もっと 勉強し、職員が、指導して、 毎食後、一人ひとりの口腔状態に 応じた支援をしている。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を 通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や 力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに、栄養バランスと水分量を、 確保できるように、記録をし、習慣に 応じた支援をしている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防や対応の取り決めは、あるが、まだ、実行には至っていない。インフルエンザの予防接種は、行っている。	○	感染症予防や、対応の取り決めを、もう一度取組むに徹底し、実行に至るようにしていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具、衛生管理に関しては、新鮮な物を（野菜・肉）は、新鮮な物を使い、調理用具も、新鮮な物を使っている。衛生管理も、しっかりと行っている。	○	調理用具、衛生管理ができていない。今一度調理用具の消毒、お風呂の消毒など徹底できるようにしたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者が家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関、建物周囲には、冬は植木や花、夏は草花など、季節に合わせておき、敷地内に、火の元をなくして、安全、安心、快適な環境を整えている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を、いつも飾って、心地よく過ごせるような工夫をしている。テレビの音量や光等、いつも気を配っている。時々、静かな音楽を流したりして、居心地よく過ごせるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	室内のあちこちに、ソファや椅子を置き、気の合った利用者同士で思い思いに過ごしたり、おしゃべりしたり、お茶を飲んだりして過ごしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上のよみがえないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている		

(部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98 職員は、生き活きと働けている。	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

1 理念である(人間の尊厳、質の高いサービス、地域福祉の向上)この理念にわたったケアの実現に向け、日々、取り組んでいます。

2 たとえ、認知症になっても、普通に暮らしていき、そしてその方の最後の看取りまでさせて頂きたいように、認知ケアに関する、技術の向上を図り、利用者のQOLの向上に、つなげるよう取り組んでいます。

3 恵まれた自然環境のもとで、家庭的、アウトドア、霧田舞、介護者との間に芽生えばかり信頼し合える関係をつくるケアを目指しています。